

【辰野町】 1人1台端末の利活用に係る計画

2025年3月

項目	内容	
①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	ICT機器の活用を学校のあらゆる場において進め、一人一人の子供の個性・特性を尊重し、個に応じた学びを保障するため、教育のハイブリッド化や、デジタル教科書の利点を生かした、より深く幅のある学びの構築を図る。また、1人1台端末及び高速大容量のネットワーク環境の整備により、異なる考え方を組み合わせた協働的な学びを充実させる。それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	
②GIGA第1期の総括	○1人1台端末等の整備 GIGA第1期には児童生徒に1人1台端末を整備し、各学校に授業用ネットワーク環境を整えた。また、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けてドリルソフトや協働学習用ソフトの導入、家庭学習でも活用できるようモバイルルーターの貸出、授業におけるICT機器活用サポートのためのICT支援員の配置なども行った。 課題としては、1人1台端末の落下による破損、経年劣化によるハード・ソフト両面における故障などが多く、クラス全員が健全な状態で端末活用できないことがあり、授業での活用が進まないことが多かった。また、小学校では学年が上がるとOSが変更になることで学校内での利用方法の共有が進みにくいことも課題であった。 GIGA第2期では国の補助金を活用し、故障が少なく、データ引継ぎが簡便なChromebookを全小中学校全学年統一で調達し、国の補助金上限の15%の予備端末も各学校に整備することで、授業を止めず常に端末活用ができる環境を整える。	
③1人1台端末の活用方策	【1人1台端末の活用】 授業における端末活用は授業を担当する教員による差が大きいため、ICT支援員による授業支援や研修を引き続き積極的に推進する。また、各教員のICT機器の活用状況を定期的に確認し、よく取り組んでいる教員の事例を集積する。その情報を学校内だけでなく学校間でも共有し、辰野町内小中学校の教員全体のICT活用能力を高めていき、日常的に授業でICT機器が活用されることを目指していく。 【個別最適・協働的な学びの一体的な充実】 ドリルソフトやCBTシステムにより、学習履歴などから学習状況を把握し、一人一人に応じた個別最適な学びの提供を行う。 また同時に、GoogleWorkspace機能などを活用して、クラウド上で友だちの考えや活動（パフォーマンス、思考過程等）を参照し、広げ深めた自分の考えを表現する協働的な学びを推進していく。 【学びの保障（臨時休業等の緊急時・不登校対策・特別支援教育・外国人児童生徒）】 臨時休業等の緊急時や不登校児童生徒に対しても、ZOOMやGoogle MEETなどのビデオ会議ツールを積極的に活用することで学校との繋がりを継続し、学びを保障していく。また、GIGA第1期から引き続きモバイルルーターの貸出は継続し、Wi-Fi環境の無い家庭でも持ち帰り学習やオンライン授業に対応できるようにする。 特別支援教室には感覚的に使用できるiPadを配備し、学習の進捗に合わせたアプリの活用ができるようにする。 外国人児童生徒についても、クラウド上の翻訳ツールの活用や翻訳機器の使用を推進し、教員や他の児童生徒とコミュニケーションがとれ、学習が継続できる環境を整備していく。	